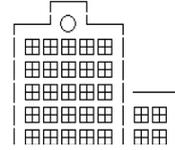


- 信州大学物理同窓会会報 0071 号 (2019-2020 年冬号) SUPAA BULLETIN No. 71 ●
- 2019 年 12 月 26 日発行
- 発行所・信州大学物理同窓会事務局 (<http://www.supaa.com/>)
- 〒390-8621 松本市旭 3-1-1 信州大学理学部物理教室内
- 「旧文理学部物理学専攻」 + 「理学部物理学科」「理学部物理科学科」「理学部理学科物理学コース」のOB・OG & 学生と教職員の会 ■
- Facebook 信大物理 (<https://www.facebook.com/ShinshuPhys>)

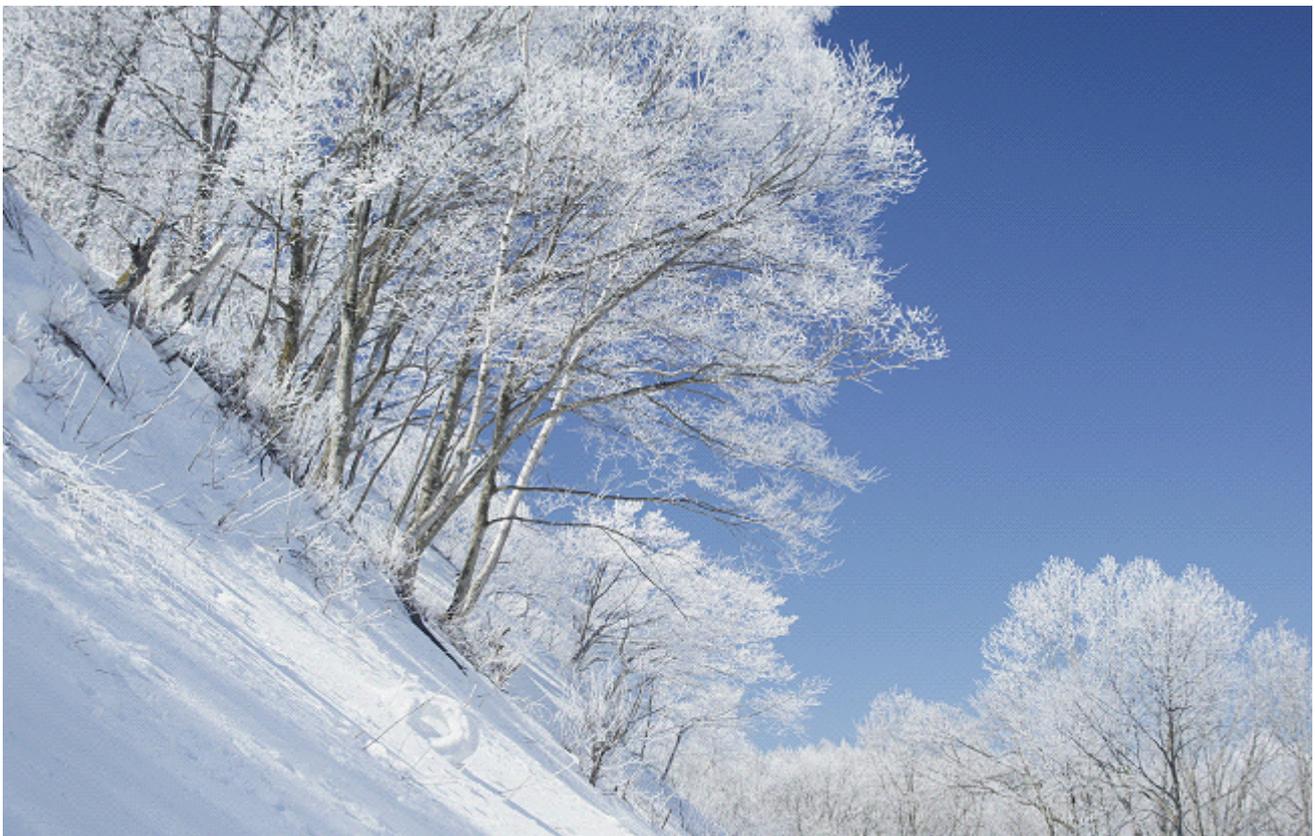


はじめに

高エネルギー物理学研究室の教授、竹下徹先生が本年度をもって退職される。先生は、1991 年に信州大学に赴任し、高エネ研を創設された。「宇宙を創る実験屋」を自称し、2012 年にはヒッグス粒子の発見に貢献された。論文の引用数では、信大では群を抜いてのトップ。新年 5 月 23 日に東京新宿で開催される当会の 23 回総会では記念講演をしていただくことが決定した！

来年度の入試から導入を予定していた「英語民間試験」の中止騒動にはあきれられるばかり。「公正制が保障されない民間企業に入試を丸投げする」などとの批判が噴出した形だ。文科省の方針に当の国大協など大学側は反対していたが、東大を「指導せよ」との政治的圧力から一転、受け入れに方針転換の経緯。外部からの介入を拒否する『大学の自治』はどうなった？ (高)

=====《巻頭のこの 1 枚》 純白のフラクタル =====



■撮影：倉田富二（理学3S） 千曲市から聖高原に入り、凍てつく峠道を車で恐る恐る上り詰めると、いきなり抜けるような青い空の下、純白の霧氷の世界へ引き込まれた。木々の先端の奇跡のフラクタルは、今も成長を続けているのだろうか。しばしシャッターの音もはばかれる空気感に包まれていた。
 ■撮影日：2018. 3. 12 ■撮影地：長野県千曲市（聖高原）

【 I・N・D・E・X 】

【 第 | 23 | 回 | 信 | 州 | 大 | 学 | 物 | 理 | 会 | 総 | 会 | (2020年5月23日開催)のご案内

- (2)
- 記念講演講師：竹下 徹 先生 ■ 演題：自然の理解（素粒子物理学）の進展と私の関わり
- ◆ | 心 | や | さ | し | く | 誰 | か | ら | も | 慕 | わ | れ | た | 松崎一 | 先生を偲んで
- ◎ ① 松崎先生の思い出.....松原 正樹 (4)
- ◎ ② 粋でお洒落な天性のダンディズム.....羽田 智恵子 (6)
- ◎ ③ 大学の物理とは何か、最初に教えてくださった先生.....小林 善哉 (8)
- ◇ 【連載 宮地先生の展望室 第6回】 山見の聖軸 宮地 良彦 (12)
- ◇ シリーズ「サイエンスラウンジ」誰もがぶちあたる「物理の壁」について X
 [チューターから] 質問する前に皆で話し合う雰囲気がある 安部 草太 (13)
- ◇ 【OB・OGの現場から】
 [天文観測研究] 沖縄石垣島で観測データとにらめっこの日々..... 堀内 貴史 (15)
- ◇ 《第10回物理学生への就職セミナー開催にあたって》
 【就職委員から】 将来の生活を考えるきっかけに.....加藤 千尋 (16)
 【①実業界若手から】 製品開発の現場と就職活動で重きを置いた事.....中島 寛人 (17)
 【②実業界中堅から】 社会人として人生をスタートするための心構え.....今関 剛 (18)
 【③実業界ベテランから】 会社に利用されるな、会社を利用せよ.....加藤 美孝 (19)
- ◇ | I | N | F | O | R | M | A | T | I | O | N |
 ● 令和元年度信州大学東京同窓会2月8日開催 のお知らせ..... (19)
 ● 竹下徹教授の最終授業と御定年退職記念会の御案内..... (20)
- ◇ 大学予算 19年度運営費交付金の傾斜配分..... (21)
- ◇ | T | O | P | I | C | S |
 ● 「アジアで最もイノベティブな大学TOP75」信大は国内で15位..... (22)
 ● スパコンしのぐ「量子計算」実証 米グーグル 英科学誌に発表 (22)
- ◇ 《再録》「同窓会費」『会計細則』決まる！ (23) ◇ 編集後記 (23)

第	23	回	信	大	物	理	会	総	会	の	ご	案	内
---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

新年5月に開催の当会23回総会の概要が固まりましたので、お知らせいたします。松本と東京で交互に開いてますが、今回は東京での開催。場所は東京駅の近くから新宿駅近く（徒歩10分）の新宿ワシントンホテル（新館）に会場を移しました。記念講演会の講師に今年度で退職される竹下徹先生にお願いすることになりました。大勢集まって旧交を温めあいましょう。

皆様におかれましても、ぜひご出席いただきますよう、お勧め申し上げます。

記

(1) 開催日：2020年5月23日（土）午後2：00～5：00（予定）

○受付 午後1:45～(予定) ○年次総会 午後2:00～2:30(予定)

○講演会 午後2:30～3:20(予定) ○懇親会 午後3:30～5:00(予定)

(2) 会場：新宿ワシントンホテル新館(東京都新宿区西新宿3-2-9 Tel.03-3343-3111)

<https://washington-hotels.jp/shinjuku-annex/>

(3) 講演会講師：竹下 徹(信州大学理学部理学科物理学コース高エネルギー物理学研究室 教授)

○演題：「自然の理解(素粒子物理学)の進展と私の関わり」

(4) 参加費：10,000円(30歳以下7,000円)

===== 第23回信州大学物理会総会 幹事 =====

三上浩佳(文理10)、太平博久(理6S)、近藤一郎(理12S)、武原一記(理22S)、足助尚志(理17S)、植田祐子(理91S)、得能久生(理95S)、三浦貴司(理03S)

【来春3月に理学部同窓会報と一緒に案内を郵送します。2月半ばからはHPでの受付も開始】

■ 記念講演講師：竹下 徹 先生

(信州大学理学部理学科物理学コース
高エネルギー物理学研究室 教授)



.....
《略歴》

1982年 広島大学大学院理学研究科修了 理学博士

1982-1991年 東京大学理学部素粒子物理国際研究施設助手

(当時のボスは小柴昌俊氏 2002年ノーベル物理学賞受賞) この間ドイツ DESY 研究所で電子陽電子衝突型加速器実験 JADE とスイス CERN 研究所の電子陽電子衝突型加速器実験 OPAL に現地で参加。

1991年 信州大学教養部助教授：スイス CERN 研究所の陽子陽子衝突型加速器実験 ATLAS に参加。現在に至る日本発祥の電子陽電子線形加速器実験 JLC に参加。(JLCは現在 ILC)

2002年 信州大学理学部教授(現在に至る)

.....

■ 記念講演演題：自然の理解(素粒子物理学)の進展と私の関わり

【講演趣旨】 自然を人の頭で理解しようとする自然科学は、自然に存在する全ての物に興味を抱き、説明しようとしています。私の研究分野である、素粒子物理学は、自然界の「根本物質」のその間に働く「力」を理解すべく挑戦してきました。その方法は、私たちの理解の根源である理論と自然界との整合性を調べる実験の両輪で動いて行きます。今や実験装置は、人類の極限に近い大きさにまで進展しました。巨大加速器による実験がその象徴的存在で、私はどっぷりこの中で研究をしてきました。巨大加速器の作る高いエネルギー状態は、今では宇宙初期の再現とも理解されるようになってきました。この辺りの最近の流れを私の存在と関連づけてお話しします。(なお、竹下先生の最終授業についてはp20に掲載しました)

■ 恩師の追憶 ■

《 1942~1983 年の 41 年間、松高~信大で物理を教えられた「名物教授」の代表格 》

心やさしく誰からも慕われた松崎一（はじめ）先生を偲んで

お亡くなりになってから早 8 有余年が経った。松崎一先生は、信州で生まれ育ち、松本高校を出て東大へ。再び松本高校の教壇に立ち、それからは新制信州大学の発足から退官されるまで、生涯のほとんどを信州大学に捧げられたといっても過言ではない。松高時代には北杜夫との逸話は有名（『ドクトルマンボウ青春記』）だが、やさしい人柄と信州人らしい誠実さに溢れ、学生からはたいへん慕われた。自宅にも招かれ、公私ともにお世話になった卒業生は数知れない。



▲1972 年(昭和 47 年)ころ、信州大学図書館長時代

■プロフィール

1917 年(大正 6 年)長野県更埴市生まれ。松本高等学校理科甲類を経て、東京大学理学部物理学科卒業。1942 年(昭和 17 年)1 月松本高校の講師になり、9 月には教授。1949 年(昭和 24 年)新制信州大学発足に伴い文理学部に異動。1966 年(昭和 41 年)に文理学部改組によって発足した信州大学教養部で長く教鞭を執り、信州大学教授、教養部長となって 1983 年(昭和 58 年)退官。その後は松商学園短期大学学長を勤められた。2011 年(平成 23 年)2 月 16 日、永眠。

松崎先生の思い出

松原 正樹 (文理 10 回 宮地研究室・元オリンパス株式会社 八王子市在住)

今でも悪夢にうなされるのは物理数学で微分方程式が一問も解けなかった事である。たしか 4 問出題されたが、その何れも解けなかった。これほど情けなかったことはなかった。演習問題では数十回問題を解いて力量をつけてきたつもりでいたが、今回はその何れも解けない。途中まで計算するも、この方法では解けないことがわかる。他の方法に切り替えて再挑戦するも解けないと分かってくる。結局一日かけるも一問も解けなかった。情けなかった。同期の連中も解ける者はいなかった。ところが一期先輩は 4 問全問解けたと言う。少なくともこの位が出来なければ大学



の物理学を収めた事にならない、その資格は無いと心苦しく思い出される。

■ 「この問題を解けるものなら解いてみろ」と自信に満ち溢れたお顔が忘れられない

1967年～1968年 卒業研究を松崎先生に師事した。
「フリップフロップ回路理論」（2進法の基本理論である。現在では量子は同時に存在する量子コンピュータが出現して処理速度は数億倍と聞く。驚異的である。）を選択した。

12月～翌年3月まで、松崎研究室に於いて特別講義をうけた。厳寒の松本市でダルマストーブに薪木をくべて暖をとった。何処の研究室も暖房用の薪木が回りに干してあるのは風物誌であった。懐かしく思い出す。学生数が少ないとは言え（確か6～7名）先生は根気よくお教え下さった。頭がさがる。またよく理解した。

卒業して勤務先を長野県内に望んだので、会社の伊那工場に5年間勤務した。光学分野であったので、卒業研究は直接光学分野に役立つものではなかったが論理的思考は何事にも必要不可欠であると痛感している。

就職後も時々ご自宅訪問して奥様から夕飯をご馳走になっていた。会社が客先に手土産として手渡すグッズをお孫さんに持って行って喜ばれた事をご子息からよく聞かすが、あまり覚えが無い。そして、悲しい出来事が起こった。奥様が急逝されたのだ。葬儀では松崎先生は気丈に振舞われていたが、内情は困窮した複雑な状態であったと推察する。

先生は内々の事は総て奥様にお任せであった。私も勤務場所が東京地区になっていたの先生にお目にかかる機会が数少なくなってしまった。しかしお会いする度に身体が弱っている様子が分かり気になっていた。

私は先生が微分方程式の問題を提示して解けるものなら解いてみろと自信に満ち溢れた顔が好きである。この顔を思い出として残しておきたい。



▲①旧制松本高校に赴任したのは1942年、当時の授業風景 ②文理学部1期生の卒業生と。前列左から松崎先生、向井先生、竹村先生 ③1958年ころ、文理の学生と。前列右から3人目が松崎先生

粹でお洒落な天性のダンディズム

羽田 智恵子（文理学部社会科学科 16 回 元東京都庁 東京都港区在住）

松崎先生は物理の学者でいらしたから、物理チンプンカンプンの私にはまるでご縁がない筈ですが、やがてパートで秘書役をお受けするようになりまして……。のちの夫が文理学部在学中、創設したマンドリンクラブの顧問にと、屋代高校の大先輩—松崎先生をお願いしたことをきっかけに、卒業後、結婚の仲人をして下さったりと、蘭子夫人共々晩年まで人生の師としてお付き合いいただけたことは幸せでした。今も松明の灯りに照らされているご恩を感じています。



■ 「惜春の詩」は先生の奥深い知性と心の青春を編集しました

私の実家は松本で信大卒業後はずっと東京暮らしですが、蘭子夫人は女子高の先輩という心安さから、帰郷のつど城東のお宅に里帰りし、ご夫妻との語らいを楽しんでおりました。ご息の泉さんに伺うと、先生は下戸に近くてビールも多目で1本程度だったそうですが、いつも美味しい家庭料理とお酒を用意して下さるので、松崎家を宴会場にしていたことは何とも図々しい振る舞いでしたね～。

先生が 67 歳の著書—『惜春の詩』（1984 年）は、それまで信濃毎日新聞や大学の機関紙などに書き留めた原稿を整理して本を出されることになり、私に編集のご指名があつて取りまとめたものです。このタイトルを考える際、松高を代表する寮歌

「春寂寥」に、先生の奥深い知性と心の青春を重ねて名付け、更に、章見出しに「ヒマラヤ杉讃歌」、「贈る言葉」、「佳日旅立ち」など詩や歌系の名前を付けたのは私の趣味に近いものだったかもしれません……。



▲④1966 年、NHK「私の秘密」に出演し北杜夫氏（左）と再会 ⑤信大を退官後、1983 年に松商短期大学の学長に就任

蘭子夫人とのエピソードも披露させていただきます。2004 年 5 月、松本の女子高の東京同窓会を新宿で開催したのですが、50 代末が担当学年となり、実行委員長に決まっていた同期生が心筋梗塞で倒れたため、私が急遽代行することになりました。300 名を超える参加者を集め、蘭子先輩に前例にないプログラムですとお知らせしたところ、当日、校長や同窓会長、諸先生や卒業生

と共に松本からバスで新宿まで応援に来て下さいました。81歳の来賓だった蘭子さんを終了後、ホテルでお見送りしたのが生前最期のお姿になるとは思いもよりませんでした……。

お帰りになって4ヶ月後、蘭子さんは突如病気で倒れ9月6日に急逝されたことは、先生の暮らしを大きく変えることに……。

■ ユーモラスで、相手が楽しくなる、「人生の粹^{いま}」を学ばせていただいた

その年87歳になられた先生を塩尻に近い介護施設にお訪ねすると、それ以前とは全く違う新しい環境の中でも、介護士や入居者の皆さんと笑顔で交流されていることに先生の大らかさと器を感じました。更に89歳からは泉さんの住まいの近く……埼玉県飯能にある介護病棟に移られ、その頃から私の顔や名前を思い出していただけていませんでしたが、最期までご家族やお弟子さんや多くの人に愛された93年だったと思います。(2011. 2. 16 逝去)

2011年5月15日、旧制松本高校以来の講堂で開かれた松崎先生を偲ぶ会では、追悼スピーチの機会を頂戴して、参列者の皆さまにこんな話を申し上げました。『松崎先生は信州人には数少ないレベルのジェントルマンでダンディなお方でした。いつお会いしてもお話がユーモラスで、相手が楽しくなるように、幸せな思いをするようにと会話を盛り上げてくださり、晩年のホームや病院でも先生のダンディズムは変わりませんでした。先生からたくさん「人生の粹」を学ばせていただいたことを今も財産にしています。

他方、先生は形式や堅苦しさがお嫌いで、式典の長い挨拶には、壇上でも堂々と居眠りをされ、その後、物理のお弟子さんを通じて私にお呼び出しがかかるのです。先生のご希望は「もう家に帰るから（一緒に行ってくれ）」と。こうして私は何度もパーティで先生と一緒に中座をしたものですから、今もあちこちに飲み残しがあります。



▲「惜春の詩」—松崎一先生を語る—
と題した偲ぶ会は2011年5月に旧松高の講堂で開かれ、このような遺影が飾られた

『ダンディズム』で思い浮かぶのは東京青年会議所以来の私の遊び仲間……流暢な会話をしながらテニスをし、銀座で歌って踊る慶應ボーイたちです。小学校から私立に入り、中学・高校から慶應義塾へという都会のお坊ちゃま育ちは東京で珍しくありませんが、なぜか松崎先生には彼らの先輩格を感じますね。異次元に近い別の環境で生きてらしたのに、粹でお洒落で人生を楽しむバラエティは天性の才能として群を抜いていたということでしょうか。

《 当会の HP に以下のような松崎先生関連のページがあります》

■ 訃報／「松崎一先生を偲ぶ会」のご案内 宮地 良彦

<http://www.supaa.com/moromoro/matsuzaki.html>

■ 平成 23 年 5 月 15 日開催の偲ぶ会への追悼文より物理科関係者からの寄稿集

<http://www.supaa.com/moromoro/matsuzaki/index.html>

大学の物理とは何か、最初に教えてくださった先生

小林 善哉 (理学 2S/電子研究室・元広島市立美鈴が丘高等学校 広島市在住)

松崎先生は、大学での物理を最初に教えてくださった方なので、私にとっては、特別に思い出深い先生です。私は、1967 年（昭和 42 年）入学の 2S ですから、松崎先生は当時 50 歳くらいであったと思います。今の私の年齢からすると、50 歳というと「若い！」と感じますが、当時、新入生の私たちから見れば、ご年配に映りました。



■ 「君の考え方はまちがっている」とはっきり指摘されるなど、ポイントを押さえた緻密さの感じられる授業でした

私たちは、松崎先生に教養部（全学部 1 年生は所属した）で教養科目としての物理学を教えていただきました。教養科目とはいえ、それまでの高校物理と比べて格段に難しくなっていました。運動方程式も微分方程式を使って表しますし、いかにも「大学の勉強をしている」という気持ちになりました。同時に、数学の力が相当ないと付いていけないと感じ、頂上の見えない高い山の麓に立ったような不安と期待の入り交じった気持ちでした。

教養部の授業は人文科学、社会科学、自然科学、語学、体育などの広範囲の教官の授業を受けました。教官も多種多様で、たとえば、法学の教官のように、学生が質問すると怒り出すというプライドの高い方もいましたが、松崎先生は、常に学生の質問に対して真正面からそれを受け止めるという姿勢をもっておられました。

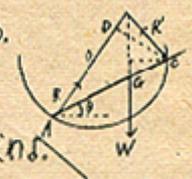
教養部であったため松崎先生の授業には、化学科や地質学科の学生も出席していました。化学科のある学生が、「ニュートンの運動の第 2 法則で、力が 0 の場合が第 1 法則になると考えれば、運動の第 1 法則は第 2 法則にまとめられる、と考えてもよいのではないのでしょうか」と質問したことがありました。残念ながら、松崎先生がどのように答えられたか覚えていませんが、学生の質問にしっかり耳を傾けられ、納得のいく説明をされたことは確かです。

また、別の時にも、「君の考え方はまちがっている」とはつきり指摘されるなど、用語の理解や使い方の間違いもきちっと指摘されるなど、ポイントを押さえた緻密さの感じられる授業だったと記憶しています。私も一度は先生が「うーん」と、うなるような質問をして、松崎先生に挑んでみたかったと、今残念に思っています。

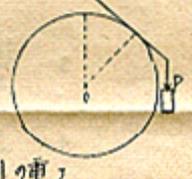
今、私の手元には、ザラ紙に印刷された手書きの「力学問題」があります。これは、もうすっかり茶色に変色しています。松崎先生の直筆によるものかどうかはわかりませんが、先生が出された課題です。この「力学問題」は、当時使っていた『大学課程物理学精説』（森北出版）にはさんであったもので、入学間もない私たちが教養部で勉強していた物理の内容を知ることができ、とても懐かしい思いがいたします。

力学問題

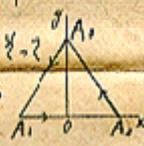
(1) 固定した滑らかな羊球(半径= a)がある。これに同じように一筋の真直の棒(長さ= $2L$, 重さ= W)が掛かっている。棒の平衡の位置と棒の交点の抵抗力を求めよ。



(2) 一筋の棒(長さ= $2L$, 重さ= W)を軸が水平になるように粗い円柱(半径= a)の上K(其の軸に垂直に)水平に置く。棒の一端に力P(重さ= P)をつけて棒、棒のまわりに滑り落ちようとする棒の傾きの重さ及び円柱の抵抗力を求め、但しこの係数を μ とする。

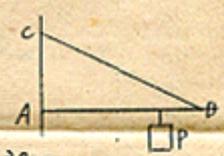


(3) 正三角形 $A_1A_2A_3$ の各頂点に於いて各辺にもつ等しい大きさの力が順順に作用する。この力系を簡単にせよ。



(4) 一筋の羊球体(半径= a)の重心の位置を求めよ。

(5) 一筋の真直の棒ABに錠Pをかけたとき、A端に於ける鉛直の壁ACの抵抗力、糸BCの張力と壁に垂直な位置に支えようとする。 $AB=30\text{cm}$, $AC=15\text{cm}$, 壁と棒と同一のまわり係数= $\frac{1}{2}$ 錠の重さや棒の重さに等しいとすれば、錠をかけるべき位置をどこにすべきか。



▲松崎先生が課題として出された「力学問題」の一部

■ 新入生全員に、「いつでも研究室に遊びに来てください」

また、松崎先生は身近な現象をとおして私たちの理解が深まるように心がけておられました。たとえば、角運動量の保存について説明されるとき、フィギュアスケートのスピンを例に出して説明されたことがありました。その折り、先生自らその仕草をやって見せて、教室を沸かせられたことがありました。そのとき、先生は笑いを取ろうとしてではなく、無意識のうちに、今ならさしずめ「浅田麻央のような」そのポーズをしてしまい、先生も苦笑しておられました。これも、先生の熱心さから出た、おかしくも懐かしい思い出です。こんなことを書いていると、そのころの松崎先生のお顔や表情が自然に浮かんで来ます。

もう一つ松崎先生について思い出されるのは、私たち(2S物理)が大学に入学して間もなく、松崎先生をお招きして「しづか」でコンパを開いた時のことです。当時、教養部では第2外国語の選択によって、クラスが分けられていました。物理学科でドイツ語を選択した者は皆同じクラスで、「担任」は松崎先生でした。同時に、私たちは教養部で物理学を松崎先生に教わりはじめたばかりでした。昨今は、大学当局が、新入生に対し飲酒を厳しく禁止しているようであり、教官

も学生と酒を飲むのを敬遠するようです。当時、私たちは、全員が未成年でしたが、新入生ばかりで「しづか」の二階に集まって、先生と一緒に酒を飲んだのです。

今になって、松崎先生もよく来てくださったものだとつくづく感心します。これが今の時代・世相ならば、先生も学生も相当のリスクを覚悟しなければならなかったことでしょう。その「しづか」でのコンパで、今でも私の記憶に残っていることがあります。

松崎先生は、「趣味は何ですか」と一人ひとりに訊かれました。その時、誰かが、「私は小説を書いています」と答えると、松崎先生は妙に感心され、「昔、そんな生徒がいた」と言われました。はて、誰のことだろう……、と思っていたら、松崎先生は、当時松高生であった北杜夫を教えられたことやそのときの思い出を話してくださいました。

そして、「将来この中からもそんな人が出るかも知れないよ」と言われました。最後に、松崎先生は、我々全員に、「いつでも研究室に遊びに来てください」と言われました。私は、大学に入学してこの機を境に、先生との距離が急に近くなった気がしました。それから数日して、物理学科の友人と連れだって松崎先生の研究室におじゃましました。

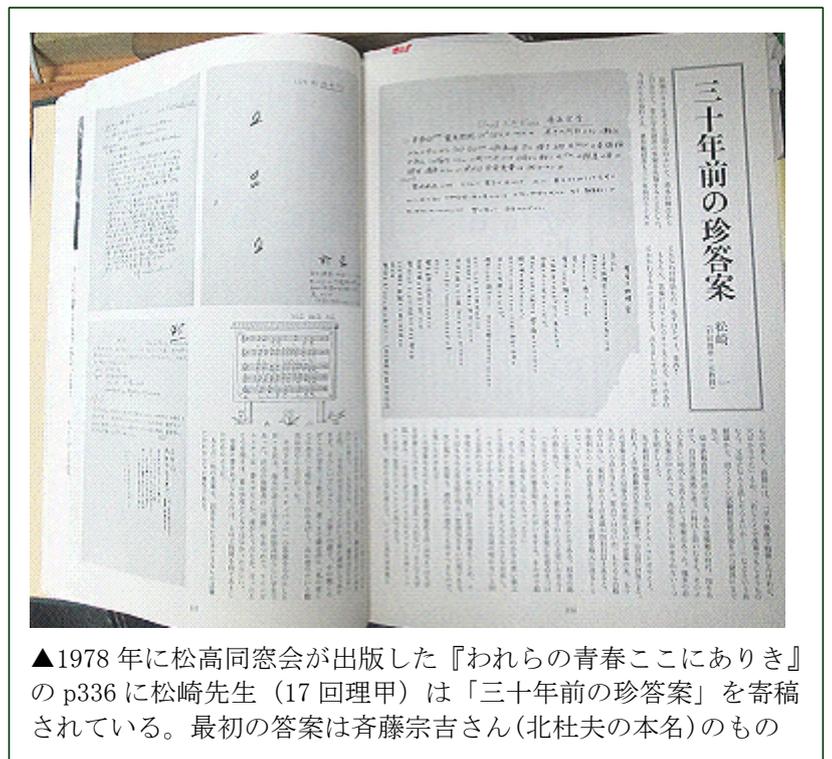
このように懐かしい思い出の多い松崎先生にも卒業後お会いすることはありませんでした。

■ 先生の手記には、人柄をあらわす人情味溢れるエピソードがいっぱい

松高生が書いた手記を集めた『われらの青春ここにありき』を読むと、松崎先生ご自身が松高出身（17 回理甲）であり元松高教授でもあったという立場で、手記を寄せておられています。その中に、先生のお人柄をよく表す出来事が載せられていますのでご紹介いたします。

* _____ *

彼らが、東京の大学に進んで、いよいよ来年は卒業という、ある夏の朝、私（松崎先生）の家の門をたたいて彼のいうのに「ク



▲1978年に松高同窓会が出版した『われらの青春ここにありき』のp336に松崎先生（17 回理甲）は「三十年前の珍答案」を寄稿されている。最初の答案は斉藤宗吉さん（北杜夫の本名）のもの

ラス会を今日しますから、先生、御出席くださいますか」ときた。「もちろん、よろこんで。場所はどこ？」と私。「先生のお宅と一言することにして皆に通知してあります。よろしいでしょう」。万事この調子。その晩ころげこんだ学生二十数名が、遅くまで隣近所に「私の家ここにあり」と喧伝してくれたあげく、山に登りたいと数名は泊まり込んでいった。

* _____ *

このように松崎先生はとても気さくで、何でも受け入れてくださるという方でした。最後に、松崎先生のお人柄をよく表しており、私が感銘を受けたエピソードをもう一つご紹介します。これは先生がお書きになった「私の半生」に載せられているものを一部抜粋という形で引用いたしました。

* _____ *

「兄さん、家内が結核らしいんだ」

弟の困ったような声に、私は居ても立ってもおれず愛媛まで飛んでいった。会社勤めの弟は一歳半の乳飲み子を抱え途方に暮れていた。

「じゃあ、この子を松本に連れて行ってやろう」

当時、愛媛から松本まで何遍も列車を乗り継いで28時間余の旅だった。私はおむつをかかえ、子供を背負って汽車に乗った。途中、京都付近であまりにも泣くので下車し、おむつを替えると泣きやんだ。おむつを駅のトイレで洗いながら切なさが胸に込みあげた。こんな状態でこれからどうなるかと、私は急に不安になった。が、もう戻れない。実は妻にも連絡せずに連れて帰ったのである。家には長男が小学校3年生、次男が幼稚園児という二人の子供がいた。しかし、妻はこの大きなお土産(?)を見て何も言わなかった。

「二人育てるのも、三人育てるのも同じですから」

妻のその言葉が何より有り難かった。知らない人たちは、わが家に第三子が誕生したと思ったらしい。

* _____ *

この出来事からも分かるとおり、松崎先生はとても人間味あふれる、思いやりのある方でした。(もちろん奥さんも同じくらいえらいと思います) 今から思えば、私が知っていた先生のお人柄はそのごく一部分でしかなかったと思います。もっといろいろ先生に接していたら……と返す返す悔やまれてなりません。

■ 松崎先生と共に過ごした、青春の思い出を大切に生きてゆきたい

信大退官後、松商学園短大に就任された先生は、校歌を制定される際、先生自ら作詞をお引き受けになり、才能教育の鈴木鎮一先生が曲をつけられ、とても立派な校歌ができたとお聞きしています。



その後、松商学園短大を勇退され、今度は信大で聴講生として若い学生と共に学ばれたそうです。そして、「今は週に一度、旧制高校記念会館に遊びに行って、自称案内人(?)をつとめている。」と「私の半生」に書いておられました。

こうして見ると、先生は長野県のご出身であり、松高そして信大で教鞭を執られ、松本の地で常に学生と共に歩んだご生涯であったと思います。私たちにとっても、信州・松本はこころのふるさとで

す。これからも、松崎先生と共に過ごした、青春の思い出を大切に生きてゆきたいと思います。

(当メルマガ会報 33号 2011年3月30日配信より抜粋再掲載)



宮地良彦先生の 展望室



■ 第6回 ■ 山見の聖軸

2019.11.27

宮地 良彦 (元信州大学学長/名誉教授 物理同窓会名誉顧問 松本市在住)

===
(^^)
o-o-))

【先生が松本に移り住まれてからほぼ70年が経過する。こよなく松本が気に入られ、ついでに棲家と決められている。日本都市の原風景ともいえる、城と山の景観が特に美しい松本市役所の屋上に立って想われたこととは…。】



読みさしの岩波新書の腰巻写真に目をやってハテナと思った。がっしりした城門の向こうに見える天守閣とその背景の山並みにどこか見覚えがある。急いで本文を繰ってみると、やはり松本市役所の屋上から望んだ松本城と北アルプスの姿で

あった。

上田篤著『都市と日本人』（岩波新書）は「神様を旅する」という副題のとおり、カミサマの息づく変化性と秩序性を併せ持つ都市を探索している。日本の都市計画においても気合の入った建築ができるような土俵を考えなければならないとする上田氏は、そういう観点から、都市の中の城から周りの山を見る視線を「山見の聖軸」としてそれを保全することを提案する。その例として登場するのが松本城と北アルプスの景観なのである。

「松本市では城の周りの建物の高さを一五～二〇メートル以下に規制する高度地区を設定して、北アルプスの山々の眺望を保存している。水と緑とグレイの屋根瓦や石垣と、白い漆喰壁や渋い板塀の向こうに雪をいただいた青くかすむ北アルプスを望む景観は、日本都市の原風景とっていいものである。」と上田氏は絶賛する。

▼松本市役所の屋上から撮影した北アルプスの眺望



松本市には「岳都」、「楽都」、「学都」といろいろの呼び名がありそれぞれ特徴を表した言葉である。まことに結構なのだが、なおその上にそれらを総合した哲学のある都市イメージを持つ呼び名を考えて頂きたいと思うのだがいかなものだろうか。松本城を世界遺産にという運動も進められているようだ。市役所の屋上から見渡す素晴らしい眺望を楽しみながら考えたことであった。

シリーズ「サイエンスラウンジ」 誰もがぶちあたる難解な「物理の壁」について そのX

難解な授業や問題に出くわしたとき、先輩に聞くことができたらと誰しも思う。そんななか登場したのが信大物理の「サイエンスラウンジ」。上級生が下級生の勉強を公式に面倒をみる取組みで、2007年に開始されています。ほぼ週2日、夕刻に6Fのラウンジに集まって勉強会を開いています。苦悩する学生の救世主の役割を果たしているのでしょうか。本年度の様子について、教える側のチューターから伝えていただきました。

[チューターから] 質問する前に皆で話し合う雰囲気がある

昨年同様にサイエンスラウンジの敷居が下がり、学生の集う場所として定着した。チューターへの質問が減っている印象だが、チューター側も対策を練っていて……。

今年のサイエンスラウンジの特徴として、「サイエンスラウンジにいる人は多いが、質問は比較的少ない」というものが挙げられます。この理由を分析してみると、「レポート問題などで分からないところがあれば、サイエンスラウンジに集まって友達同士で議論しあい、それでも分からなければ質問に来る」という利用方法が確立されつつあるようです。解き方をすぐに質問するのではなく、一旦友達と議論してみることで理解が深まることも往々にしてあるので、このような文化が醸成されていくのは非常に良いことであると思います。



私たちからも物理の面白い話題を提供し、大学院入試などの質問にも回答

一方で、チューターとしては、質問が少なく少々寂しいのも事実です。そこで、これまでの受け身(=質問を待つだけ)のやり方だけではなく、チューター側からも物理の面白い話題を提供するような試みも始めています。

具体的には、担当チューターの専門分野で、サイエンスラウンジ利用者が興味を持ってくれそうなトピックをホワイトボードに書き、興味を持ってくれた学生には詳しい話をするといった試みを始めました。他にも、チューターの所属する研究室の紹介など、研究室選択の参考になるような情報の提供も考えています。

今年のサイエンスラウンジ利用者の統計から、利用者の学年としては2年生が最も多く、質問の多い内容としては、電磁気学や物理学実験であることが分かります。2年生の利用が最も多い理由としては、質問内容からも分かるように、2年生から始まる電磁気学に苦戦している人が多いからであると考えられます。また、物理学実験についての質問では、回路実験やプログラミングについての質問が多く見られました。今年のチューターは、6人中3人が実験系研究室に所属しており、このような質問にもしっかりと答えられる体制をとっています。



▲ことし10月に開かれたある日のSL。疑問点を出し合い、静かな中にも活発な雰囲気を感じられた

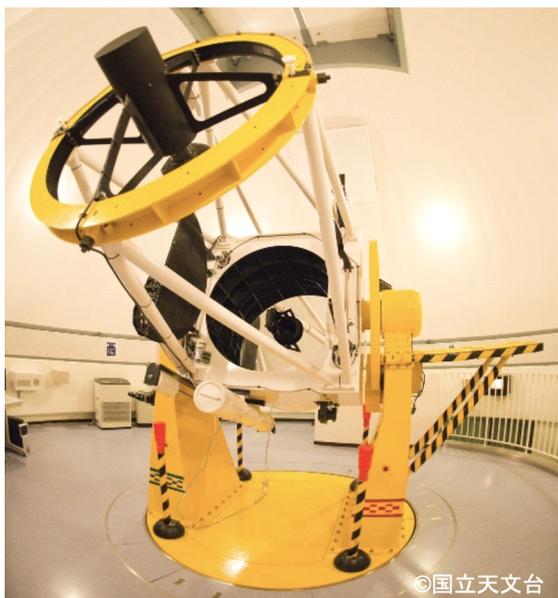
また、サイエンスラウンジでは、レポート問題や実験についての質問だけでなく、大学院入試などについての質問も受け付けています。特に今年は、大学院入試を来年に控えた3年生だけでなく、2年生からも進学先の決め方や勉強法などについての質問がすでに出始めており、大学院への進学について意欲的な学生が多いことが伺えます。今年のチューターは全員が大学院への進学を決めており、自らの大学院受験時の体験をもとに、効率的な勉強法など適切なアドバイスをしていきたいと思っています。

[天文観測研究] 沖縄石垣島で観測データとにらめっこの日々

堀内 貴史 (014ST/信州大学総合理工学系研究科博士課程 国立天文台 石垣市在住)

私は2017年12月から特任研究員として石垣島天文台(国立天文台)に勤めています。主な仕事は九州・沖縄地方最大の光学望遠鏡「むりかぶし」(口径105cm)を用いた観測研究です。私の研究対象はクェーサーという宇宙で最も明るい部類の銀河中心核です。

クェーサーは非常に面白い性質をたくさんっており、現在もさかんに研究が行われています。また石垣島天文台は国内外の計3つの観測プロジェクトに参加しており上記のクェーサー以外にも依頼に応じた超新星爆発彗星小惑星や木星など様々な天体の観測研究にも従事しています。



▲上が「むりかぶし」。下は観測所の遠景

国外のプロジェクトにも参加しているため英語力が欠かせません。着任時はコミュニケーション等に苦労しましたが徐々に慣れてきており現在も欠かさず勉強中です。

その他琉球大学と提携し連携授業での講義や卒業研究指導を行ない、さらに望遠鏡のメンテナンスや天体画像の撮影などの広報普及活動も行なっています。

普段は観測研究のため夜間の勤務となり、夕方頃から早朝までパソコンにかじりついて研究していることが多いです。いわゆる昼夜逆転生活を送っていますが、学生の頃からこのような生活をしてきたので抵抗なく過ごさせています。

土日は天体観望会のサポートで

出勤しているため月・火を休日にする事が多いです。
休日は地域のバドミントンサークルで汗を流していますが日頃の運動不足を解消するために「八重山星の会」の人に勧められたのが参加のきっかけです。それ以外にも石垣島のお気に入りのお店を食べ歩くことも楽しみの一つにしています。

一方で研究者にとって最も重要な仕事は学术论文を書く事なので休日の時間も有効活用して石垣島の自然に囲まれながら論文を執筆する日々です。研究生活は体力的に大変な面もありますが職場の上司やスタッフ皆さんが親切にしてくださることもあり非常にやりがいを感じています。おかげ様で更なる飛躍に向けて歩む気持ちが枯れません。



▲石垣島は沖縄南西部八重山諸島に位置し亜熱帯気候で、観光客も多く訪れる

◎ 第10回物理学生への就職セミナー 開催にあたって

学部3年生、修士1年生を主な対象とした今年度の「就職セミナー」の概要が固まりました。就職委員の加藤先生に前書きを頂き、3名のOB講師をご紹介します。

- 日時：2020年1月31日（金）13：30～16：20
- 会場：理学部第8講義室
- 主催：信州大学理学部理学科物理学コース
- 共催：信州大学物理同窓会

【就職委員から】将来の生活を考えるきっかけに

加藤 千尋（信州大学理学部理学科物理学コース 就職委員 宇宙線研究室教授）



本年も”就職セミナー”開催の時期になりました。先輩方をお招きして経験を踏まえたお話しをしていただき、”キャリア”について考えるきっかけにできればという企画です。同窓会のご協力で回を重ね、今回で10回目となりました。

この間、大学で学生の置かれている状況や大学におけるキャリア教育の環境も随分と様変わりをしています。こうした中で、どのような機会を学生諸君に提供する（できる）のかについて考える上でも節目の回でもあるように

▼2019年2月6日に開いた第9回就職セミナーの様子



思います。それを踏まえ、学生の期待や状況への対応をどうするか、を念頭に実施しようと考えています。

もちろん、参加する学生諸君には先輩方の話を聞いて自身のキャリアを考えるきっかけとして、活発な意見交換ができることを期待しています。

●第10回物理学生への就職セミナー 講師のプロフィール

【実業界若手から】演題：製品開発の現場と就職活動で重きを置いた事

講師・中島 寛人 氏（理学 010S／素粒子理論研究室
東洋計器株式会社総合開発研究所 IoT 機構設計チーム チーフ）

■ 講演趣旨 ■



私は現在社会人4年目となり、後輩もできて責任ある立場となってきました。現在の仕事はメインとして水道メーターの性能改善、新製品の開発を行っております。また、最近はメータにもIoT化の流れがあり、それらの開発にも携わっています。最近は国外の会社との連携も増え、会社全体の国際化も進んで参りました。私も技術者の立場として外国に赴く事もあります。

私が就職活動で重きを置き、今も大切にしていることは、日々新しい事を学び続けるという意味を持てるかという事です。大学で培った勉強の習慣化や探究心を失いたくないと考えていました。メーターの性能や精度の向上には終わりがなく、勉強の日々です。

当日はメーター開発とはどのようなものか、また大学で学んだ事がどのように役立っているかお話ししたいと思っています。皆さんの就職活動の一助となれば幸いです。

1. 略歴

2010年4月信州大学理学部物理科学科入学
2016年3月信州大学大学院理工学系研究科卒業（素粒子理論研究室）
2016年4月東洋計器入社 水道メーター、ガスメーター等の開発を行う。
CADによる製図、性能評価が主な業務

2. 趣味、好きな言葉など

読書、映画鑑賞、カクテル作り

【実業界中堅から】演題：社会人として人生をスタートするための心構え

講師・今関 剛 氏 (22S/統計研究室 株式会社 イマテック 代表取締役
コンサルティング部 シニアコンサルタント)

■ 講演趣旨 ■



私が就職してから30年弱が過ぎ去り、現在の就職状況は劇的に変化しています。私が学生のころ、経済は好景気の頂点を極めており、就職先に困ることはありませんでした。しばらくして、就職氷河期が到来し、希望する企業への就職が困難となりました。学生が社会人として歩み始めるとき、時代の波の影響は避けられません。し

かし、いつの時代も、大学で学んだ専門的な知識を業務に適用できる人もいれば、一見、畑違いな場所であっても、学生時代の経験を基礎にして頑張っている方もおられます。

私は幸運なことに、数値解析分野からソフトウェア開発の専門的な技術までを、仕事を通じて高め、生かすことができました。特にIT関係は、最先端を常にキャッチアップしなければならないため、開発環境を含め保有技術のブラッシュアップが欠かせません。

以上を踏まえ、厳しそうでかつ未経験の領域に対し、自分の得意な部分を如何に生かし、仕事に結びつけていくかについて、お話ししたいと思います。就職は、人生の大きな選択の一つです。今後の進路選択の参考にして頂ければ幸いです。

1. 略歴

- 1987年4月 信州大学理学部物理学科入学
- 1991年3月 信州大学理学部物理学科卒業 (統計研)
- 1991年4月 東芝CAEシステムズ (現東芝インフォメーションシステムズ) (株) 入社
CAD/CAM/CAE 支援、組込みシステム、金融システム開発に従事、製造業における設計/開発業務および製品品質の改善に貢献
- 2000年5月 (株)豆蔵 入社。技術者教育、開発技術支援、プロセス改善に従事。ソフトウェアプロダクトラインの調査・研究。
- 2005年9月 (株)イーソル入社。ソフトウェア再利用技術、品質保証コンサルティング。
ソフトウェアプロダクトライン関連講演、翻訳書籍の出版。
- 2009年8月 (株)ビズモ入社。ソフトウェア開発技術およびプロセス改善に従事。
- 2010年4月 (株)イマテック創業。製造業、金融証券業、流通業向けコンサルティング。

2. 趣味、好きな言葉など

読書、山歩き、旅行、絵画鑑賞、PC自作

【実業界ベテランから】演題：会社に利用されるな、会社を利用せよ

講師・加藤 美孝 氏 (10S/電子研究室 日本アイ・ビー・エム株式会社
ASIC デザインセンター担当マネージャー)

■ 講演趣旨 ■



私はソフトウェア会社を一年半で退社し1980年IBMに入社しました。56歳で退職するまで、IBMでは今考えると結構自由に仕事をしていましたが、それなりの評価をいただいていたように思います。夜遅くまで時には徹夜までして仕事をしたこともあります。仕事がいやになったことはありません。それはなぜかと今考えれば、会社に仕事をさせられていたのではなく、自分で自主的に仕事をしてきたからだと思います。

よく仕事を好きになれといいますが、でも仕事そのものを好きになるのは難しいですよ。自分の業務範囲の中で自分の好きなことをみつけてそれを成し遂げるのです。それは結局会社にも有益ですし、好きなことをやっているわけですから自分も楽しいわけです。これが会社を利用するという事です。会社を利用して好きなことをやるということです。

具体的に私がどんなことをやってきたか紹介したいと思います。

1. 略歴

- 1979年 信州大学理学部物理学卒業
- 同年 株式会社コア入社
- 1980年 日本アイ・ビー・エム株式会社入社 野洲工場勤務 磁器装置品質管理に所属
- 1987年 同社 製品業務開発に異動
- 2000年 同社 ASIC デザインセンター(勤務地京都)に異動
- 2007年 ASIC デザインセンター長に就任
- 2012年 マイクロエレクトロニクス事業部閉鎖に伴い退職

2. 趣味、好きな言葉など

水泳(ちょっと本格的で競技志向です) パソコン ボランティア活動 音楽鑑賞

I N F O R M A T I O N

□ 令和元年度信州大学東京同窓会2月8日開催のお知らせ

令和2年2月8日(土)、アルカディア市ヶ谷にて、信州大学東京同窓会が開催され

ます。

信州大学東京同窓会（信州大学同窓会連合会東京支部）は、学部を超えて信州大学の卒業生と在校生とのネットワークを繋ぎ、交流・親睦を図りながら多様な情報交換を推進するために平成21年2月に設立されました。

各学部同窓会の東京支部が中心となって、信州大学東京同窓会が下記のとおり開催されます。他学部の卒業生とも交流することができます。また、東京での就職活動を考えている学生も大歓迎です。学生は無料です。是非、ご参加ください。

詳細は、下記のご案内をご覧ください。

主催：信州大学東京同窓会 協賛：信州大学校友会

記

<日時> 令和2年2月8日（土）14時30分から（受付：13時30分～14時30分）

<場所> アルカディア市ヶ谷（03-3261-9921）

（東京都千代田区九段北4-2-25 市ヶ谷駅より徒歩2分）

<内容> ①講演会

「松本から辺境の地へー「山と人と本と」編集の現場から学んだこと」

講師 神長幹雄氏（人文学部経済学科：昭和50年卒）

②信州大学学長から 濱田州博

③総会

<懇親会> 午後4時55分から

信州大学交響楽団ミニコンサートや毎年恒例の抽選会があります！

<会費> 8,000円、平成27年3月以降の卒業生4,000円、学生無料）

※ 講演会だけに参加の方は会費2,000円

※ 着座式のため、ご出席の連絡を受け、開催日2日前（2020年2月6日17:00）以降にキャンセルされる場合は4,000円を申し受けます。

■申込方法：

「東京同窓会参加希望」と明記いただくとともに以下の項目をご記載の上、東京同窓会（tokyodoso★shinshu-u.ac.jp ※★を@に変えてください）までメールにてお申込みください。

※令和元年12月27日（金）が締め切りとなります。

- ①氏名 ②学部・学科 ③卒業年月 ④出身地（長野県出身者は市町村、他県出身者は都道府県）⑤勤務先（元・無記名可）⑥自宅郵便番号 ⑦自宅住所
⑧電話・ファックス ⑨メールアドレス

□ 竹下徹教授の最終授業と御定年退職記念会の御案内

1. 記念講演（最終授業）

日時：令和2年3月14日（土）14:00～16:00

場所：信州大学理学部 講義棟第1講義室

2. 記念祝賀会

日時：令和2年3月14日（土）18:00～18:30 受付ウエルカムドリンク
18:30～20:30 祝賀会

場所：ホテルブエナビスタ（松本市本庄1-2-1、tel：0263-37-0111）

会費 11,000円（醸金一口2,000円を含みます。）

3. 退職記念品醸金

一口 2,000円

準備の都合上、出欠の御予定をEメールでkinenkai_at_azusa.shinshu-u.ac.jp（_at_を@に書き換えてください）宛に来年1月末日までにお知らせくださいますようお願い申し上げます。また、記念祝賀会に御出席いただけます方は2月14日までに会費を振込口座にお振り込みいただきますようお願い申し上げます。なお、記念祝賀会に御出席いただけない方で、退職記念品の醸金をしていただける場合には、2月14日までに醸金を振込口座にお振り込みいただきますようお願い申し上げます。

詳しくは記念会のホームページもご覧ください。

ホームページ：<http://azusa.shinshu-u.ac.jp/kinenkai>

出欠連絡先：e-mail：kinenkai_at_azusa.shinshu-u.ac.jp（_at_を@に書き換えてください。）

振込口座：ゆうちょ銀行 竹下徹教授御定年退職記念事業会

ゆうちょ銀行から：記号11190 番号37591411

他の金融機関から：店番118 店名一一八（イチイチハチ） 普通3759141

お問い合わせ先：長谷川庸司 tel：0263-37-2471

大学予算 19年度運営費交付金の傾斜配分

国立大への2019年度運営費交付金の一部を傾斜配分する率が公表された。今回から、教育研究や経営改革の成果を相対的に評価する方式を導入。若手研究者率の観点で、全国86大学のうち24大学が増額評価を受けた。

若手研究者率に関しては、常勤教員に占める40歳未満を算出。これを基に旭川医科大、山梨大、徳島大など7校が最高の110%、信州大（本部・松本市）など17校が105%とされた。41校は90%または95%となり、減額となった。

各大学が「地域貢献」など3分野から目指す方向を選び、自ら決めた目標の進展を評価する従来方式に加え、今回は「若手研究者率」など五つの観点で成果を評価する新方式を取り入れた。両方式に基づき、各大学へ計1千億円を分配する。

従来方式では、全国86大学のうち25校が増額、41校が減額、20校が同額とされた。このうち地方大学が多い「地域貢献」分野では、弘前大、横浜国立大、信州大、京都工芸繊維大、大阪教育大の5校が最高の105%の評価を受けた。

運営費交付金は大学の規模などに基づき算出しているが、文科省は2016年度から、大学の特色を強化するため、各大学に交付金の一定割合を拠出させ、再配分する制度を取り入れた。



（信濃毎日新聞より）

T O P I C S

□ 「アジアで最もイノベーティブな大学 TOP75」 信大は国内で 15 位

通信社ロイター (REUTERS) による「Asia Pacific's Most Innovative Universities」(アジア太平洋で最も革新的な大学ランキング) の最新版が発表されました。このアジア太平洋地域のランキングでは 75 位まで発表され、このうち日本の大学は昨年同様に同じ顔ぶれの 19 大学が入りました。ただ、東大が昨年の 2 位から 5 位に順位を下げ、日本勢は後退気味でした。信大は国内 15 位。早慶以外は国立大学となっています。

■ 「アジアで最もイノベーティブな大学」 ランキング 2019

全体順位(昨年) 大学名 国内順位 昨年国内順位 一昨年国内順位

5 位(2 位)	東京大学	1 位	1 位	1 位
6 位(6 位)	大阪大学	2 位	2 位	4 位
7 位(7 位)	京都大学	3 位	3 位	3 位
12 位(14 位)	九州大学	4 位	5 位	7 位
13 位(9 位)	東北大学	5 位	4 位	2 位
18 位(16 位)	東京工業大学	6 位	6 位	5 位
23 位(18 位)	慶應義塾大学	7 位	7 位	6 位
27 位(31 位)	名古屋大学	8 位	11 位	9 位
28 位(23 位)	北海道大学	9 位	8 位	8 位
29 位(30 位)	熊本大学	10 位	10 位	12 位
40 位(48 位)	筑波大学	11 位	15 位	13 位
42 位(34 位)	東京医科歯科大学	12 位	12 位	11 位
45 位(29 位)	広島大学	13 位	9 位	10 位
61 位(52 位)	千葉大学	14 位	16 位	16 位
65 位(40 位)	信州大学	15 位	13 位	14 位
66 位(43 位)	金沢大学	16 位	14 位	15 位
68 位(72 位)	神戸大学	17 位	19 位	19 位
71 位(59 位)	岡山大学	18 位	17 位	17 位
73 位(70 位)	早稲田大学	19 位	18 位	18 位

● 「科学を進展させ、新技術を創り出し、新しい市場や産業を育てる、アジア太平洋地域のなかで、最もイノベーティブな大学のランキング」です。4年連続のトップに選ばれたのは、韓国の国立大学 KAIST (Korea Advanced Institute of Science and Technology) 大学。大田、ソウル、釜山にキャンパスを持つ、韓国最古の研究機関です。



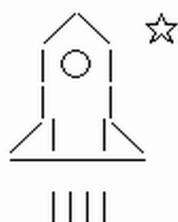
□ スパコンしのぐ「量子計算」実証 米グーグル 英科学誌に発表

次世代の超高速計算機と期待される量子コンピューターの試作機を使い、世界最高速のスーパーコンピューターより速く計算できる「量子超越性」を初めて実証したと、米グーグルの研究チームが、英科学誌ネイチャーに発表した。新材料や新薬の開発などに使える本格的な量子コンピューターの開発に向けた重要な一歩だとし

に移住、起業します。小生は、52歳まだ、定年退職には、早すぎますが、人生100年時代、75歳までは、働くことを見据えての決断でした。それが、50歳くらいの「働かないおじさん」問題の、ソリューション、ロールモデルになるように頑張ります。(AK)

◇・・・本号で我々の年代からすれば伝説ともいえる松崎先生の特集がされています。私が入学した年(1982年)、教養部坂本博先生の学問論の後期は、いろいろな先生に2週ずつ学問について語って頂くもので、松崎先生も担当されました。松崎先生は「これは長野の偉い先生に書いてもらったものだ、教養部長室か、皆さんが見えるような場所に飾るのがいいか検討している」というようなことをお話されて、文字を見せて下さいました。それは、『慈悲』と書かれており、「慈悲の心がないと学問はできないよ」というようなお話があったことは覚えていますが、その真意は未だに掴めきれません。なんとなくわかったようなわからないような、一生かけてもわからない問題というのも、学生時代に与えられるものなのかもしれません。(NA)

★・・・12月初めNHK TVでの1週間にわたる「パラレル東京」は、東京での地震災害を想定したドラマを通して備えへの貴重な疑似体験番組であった。「災害は忘れたところにやってくる」とは寺田虎彦の言葉とされているが、実際には寺田の門下生であった中谷宇吉郎が寺田の言葉として新聞に書いたことが真相とのことである。地球温暖化対策として長期の対策と同時に、地震という一瞬の災害への対策にも日頃から心がけておきたいものである。(HT)



●・・・「ユーチューバー」という造語ができてから久しい。ネット上のYouTubeに音声や動画を自由に投稿でき、また誰でも視聴できる。YouTube側は、ここにCMを挿入し、閲覧回数に応じてクライアントからCM料を支払ってもらい、一部を投稿者に還元する仕組みだ。そのため、動画のヒット作の投稿者はそれだけで生活できてしまう。前置きが長くなったが、これが社会を変えつつあるように感じる。TVと違って、自由にものが言えるため、政治解説や世相診断が実に面白い。2010年代の当初は、いわゆる「ネウヨ(ネット右翼)」の独壇場

であったが、最近はネット住民も様々な層が参加しており、このYouTubeの番組によって本当の情報に接することもある。安倍政権になってから、マスメディアへの規制や介入があり、報道の自由は大幅に後退しているとみられ、TVの視聴率も漸減。それに代わる新しいメディアとして注目される。

●・・・憲法学者の小林節氏(慶應大学名誉教授)は、次のように書いている。『憲法23条は「学問の自由」を保障している。それに「大学の自治」の保障も含まれている。…「大学の自治」とは教授団(学者)が(大学の運営を)自律的に決めるべきことで、外部からの介入を許さないという趣旨である。』と。大学という仕組みはイタリアのボローニャで8世紀に始まった。『政治権力にとって不都合な学説を発表した学者が政治的弾圧を受けた例は枚挙にいとまがない。法律・人事で文科省を支配している与党の議員が、文科省に対して東大の「指導」を要求するなどということは、憲法23条に照らしてあってはならない。このような知性に欠ける政治権力者たちが文明国日本を破滅へ導いてしまうのではないか。本当に心配である。』と結ぶ。そういえば、昨今の運営交付金による文科省の国立大学への締め付け(?)を知るにつけ、「独立行政法人化」の別の狙いが透けて見える気がする。(MT)

● 信州大学物理同窓会会報 0071号 (2019-2020年冬号) SUPAA BULLETIN No. 71 ●

● 2019年12月26日発行 ●

□ 編集・発行/信大物理同窓会事務局

□ 編集長:高藤 惇 □ 副編集長:來田 歩 □ 発行人:太平 博久

《編集委員》松原 正樹(文理10) 高藤 惇(2S) 渡辺 規夫(4S) 太平 博久(6S) 足助尚志(17S)

來田 歩 (22S)

- 当会報のバックナンバー閲覧サイト : <http://www.supaa.com/kaiho/index.html>
- 当会へのお問い合わせ先 : <http://www.supaa.com/postmail/postmail.html>

(C) 信州大学物理同窓会事務局 無断複製・転載を禁ず
